

授 業 要 項 (令和7年度分)

2 年 生

理学療法学科

授業科目名			キャリアマネジメント論Ⅱ		(フリガナ) 担当教官名		スズ 鈴		キ 木		テツ 哲	
開 講 学 期			前期									
対 象 学 科 及 び 学 年			理学療法学科 2年 作業療法学科 2年	時 間 数 単 位 数	15 1	授 業 形 態	講義	必修・選択 の 別		必修		
科 目 概 要			就職先が求める人材像や報酬等について学び、自己分析や企業分析の演習を行うことを通じ、在学中のキャリア形成活動に必要な基礎的能力を身に着ける									
到 達 目 標			・ 企業分析の方法に関する知識を獲得する。 ・ 企業分析を行う経験をする。									
回数	授 業 内 容									担 当		
1.2	オリエンテーション 授業の目的と内容理解、到達目標の理解 キャリアマネジメント論Ⅰの復習 幸せの構成要因の優先順位と、ライフキャリアにおける自己分析（演習） 働く意味・目的と、ワークキャリアにおける自己分析（演習）									鈴木 哲		
3.4	就職先が求める人材とは？ 理学療法士・作業療法士の報酬と求人票 企業分析の方法									鈴木 哲		
5.6	ワークキャリアにおける自己分析と企業分析（演習）									鈴木 哲		
7.8	発表									鈴木 哲		
アクティブ ラーニング		ライフキャリアにおける自己分析を行う。 ワークキャリアにおける自己分析を行う。 企業分析を行う。										
評 価 基 準		出席日数と授業態度によって評価を行う										
教 科 書		適宜資料を配布する。										
参 考 書		特になし										
実務経験に 関する記述												

授業科目名			解剖学－実習－		(フリガナ) 担当教官名		ホリ 堀 カリ 菊	エ 江 タ 田	タカ 貴 テツ 哲	フミ 文・ ヤ	カン 神	ダ 田	イチ 一	ロ 路
開 講 学 期			前期											
対 象 学 科 及 び 学 年			理学療法学科 2年 作業療法学科 2年	時 間 数 単 位 数	30 1	授 業 形 態	実習	必修・選択 の 別		必修				
科 目 概 要			人体各器官の模型を用いながら、神経系、内臓器系、運動器系の3分野に分けた実習を行う。実習はPT学科・OT学科合同のグループワークとする。全体で9グループ作成し、神経系、内臓器系、運動器系それぞれで3グループずつ配置し、5コマ毎に各分野をローテーションしながら全ての分野の学習を行わせる。担当教員は事前に各分野に関する予習課題を課し、各分野授業開始時に小テストを行う。また学習終了時に理解度の確認のための口頭試問を行う。											
到 達 目 標			・各系統を構成する個々の器官の形態や構造および互いの立体的に位置関係を正しく理解し説明できるようになる。 ・模型を用いて人体各器官の立体的な構造を理解することにより、講義で学んだ知識と関連付け、説明することが出来る。											
回数	授 業 内 容										担 当			
1～15	①オリエンテーション（到達目標、授業の流れ等） ②PT・OT合同で9グループに分かれる。 ③②のグループを神経系、内臓器系、運動器系の各分野で3グループずつに分ける。 ④各分野に対し5コマずつ学習を行い、ローテーションしながら15コマで全分野の学習を行う。										堀江貴文 神田一路 菊田哲也			
アクティブ ラーニング			各分野の解剖学的構造に関する予習課題を課し事前学習を行わせ、各分野における授業開始時に小テストを実施する。実習はグループ学習を基本とするため、グループメンバー全員が相互に協力して実習を遂行する必要がある。											
評 価 基 準			出席状況（10％）小テスト（30％）、口頭試問（60％）により判定する。口頭試問は学習期間内に必ず合格することを原則とする。 3領域すべての合格で単位認定とする。不合格の分野についてはその分野の担当教員による個別指導を行い、合格するまで学習を継続させることとする。											
教 科 書			標準理学療法学・作業療法学・解剖学（第5版）（奈良 勲ら監修、医学書院）											
参 考 書			Qシリーズ 新解剖学（第6版）（加藤 征監修、日本医事新報社）											
実務経験に 関する記述			総合病院において、7年間専任理学療法士として従事し、回復期病棟、医療療養病棟、外来における身体障害および老年期障害に対する個別理学療法を実践した教員が、解剖学の基礎から立体的構造、各器官の相互的位置関係に至るまで、人体各器官の構造を総合的に学ばせる。											

授業科目名		生理学実習		(フリガナ) 担当教官名		ハシモト 橋本 カンダ 神田		ミチ オ 道男・山崎 イチ ロ 一路・菊田		ヤマサキ ケン ジ 健治・後藤 テツ ヤ 哲也		ゴ トウ 後藤 トモ キ 智基	
開 講 学 期		前期											
対 象 学 科 及 び 学 年		理学療法学科 2年 作業療法学科 2年	時間数 単位数	45 1	授 業 形 態	実習	必修・選択 の 別		必修				
科 目 概 要		生理学の講義で学習した生体の諸機能のうちで重要な項目を選び、実習によってこれらが真実であることを認識するとともに、生理学的な生体機能の考察を通じて生理学の知識と理解を更に深め、療法士としての資質を高めることを目的とする。											
到 達 目 標		①各テーマごとに必要な生理学の知識を復習し、修得できる ②各自が責任をもちグループ内で協働し実習に取り組むことができる ③実習で得た結果について、生理学的知識を用いて考察できる ④担当教員の指導をもとにレポート作成、発表準備、発表を行うことができる											
回数	授 業 内 容										担 当		
1	オリエンテーション 授業の目的、内容、到達度等について説明する。										山崎健治		
2	確認小テスト										山崎健治		
3~5	Ⅰ－1. 神経の興奮と伝導 誘発筋電図を使用して神経伝導速度の測定を行う。さらに駆血させた状態では、神経伝導速度がどのように変化するか観察して、その要因を考察する。 Ⅰ－2. 筋長と筋収縮力の関係（長谷川奈保） ハンドヘルドダイナモメーターを使用して、肘関節の角度毎の屈曲力を測定する。角度による肘屈曲力の変化を観察し、その要因を考察する。										橋本道男 菊田哲也		
6~8	Ⅱ. 感覚と反射 体性感覚の特性について実験を通じて確認し、受容器や神経、脳の機能局在の特徴から考察する。また、伸張反射を観察し、そのメカニズムを考察する。										後藤智基		
9~11	Ⅲ. 換気とガス交換の生理 スパイロメーターを用いて肺活量等を測定する。体幹を側屈させた場合では排気量にどのような変化が起こるか観察し、その要因を考察する。 また、パルスオキシメーターを使用して酸素飽和度を測定する。息こらえなどの操作により、酸素飽和度がどのように変化するか観察し、その要因を考察する。										山崎健治 神田一路		
12~14	Ⅳ. 運動と代謝 呼気ガス分析装置を用いて、運動時の酸素摂取量、二酸化炭素排出量等を測定する。それらの結果からエネルギー代謝の状態を考察する。										山崎健治 後藤智基		
15~17	Ⅴ. 腎機能と水分調整 蒸留水や等張液、運動負荷などで尿量や尿の塩濃度、比重がどのように変化するか観察する。そして、その変化の要因について考察する。										橋本道男 菊田哲也		
18~20	Ⅵ. 心臓の活動と心電図 実際に心電図を測定することで、心臓の刺激伝導系について確認する。加えて、バルサルバ手技により心拍数がどのように変化するか観察し、その要因を考察する。										神田一路		
21~23	報告会 各グループごとにテーマを担当し、発表する。										担当教員全員		
アクティブ ラーニング		実習を通じて1年次に学んだ生理学の知識について再確認するとともに、理解を深める。最終的にグループごとにテーマを指定し、クラス全体の結果をまとめ、考察を行い、報告会において発表する。											
評 価 基 準		課題取り組み状況 10%、レポート内容 60%、発表内容 20%、確認小テスト 10% ※上記に関わらずレポートの提出ができなかった場合は単位を認めない											
教 科 書		・標準理学療法学・作業療法学 生理学 第5版（医学書院） ・実習書を配布する											
参 考 書													
実務経験に 関する記述													

授業科目名			臨床心理学		(フリガナ) 担当教官名		シ 執 行 ミ 三 カ 佳		
開 講 学 期			後期						
対 象 学 科 及 び 学 年			理学療法学科 2年 作業療法学科 2年	時間数 単位数	30 2	授 業 形 態	講義	必修・選択 の別	必修
科 目 概 要			臨床心理学は、対人援助識者が被援助者の心情理解をするにあたって重要な分野である。この授業では、臨床心理学の歴史、理論的背景、主な支援方法、現代的なトピックスを概説するとともに、様々なワークを通して自己理解及び他者理解を深める。						
到 達 目 標			・臨床心理学的支援の理論と介入方法の概要を説明できる。 ・臨床心理学的見地から、支援者としての自分の意見をまとめ、表現することができる。						
回数	授 業 内 容								担 当
1	オリエンテーション、臨床心理学を学ぶ意義、臨床心理学の目指すもの								執行三佳
2	臨床心理学の歴史、臨床心理学的支援に関わる基本的な理論								執行三佳
3	精神的健康とは何か								執行三佳
4	インテーク面接とアセスメント								執行三佳
5	臨床心理学的支援（1）精神分析の理論								執行三佳
6	臨床心理学的支援（2）精神分析療法								執行三佳
7	臨床心理学的支援（3）行動療法・認知行動療法								執行三佳
8	認知行動療法的アプローチの実際								執行三佳
9	臨床心理学的支援（3）人間性心理学								執行三佳
10	聴くことについて（傾聴・カウンセリングの模擬体験）								執行三佳
11	トピックス（1）発達障がいと合理的配慮								執行三佳
12	トピックス（2）心の危機								執行三佳
13	日本の臨床心理学的課題								執行三佳
14	対人援助職者のメンタルヘルス								執行三佳
15	テスト								執行三佳
アクティブ ラーニング			自分自身の心を見つめることを通して学ぶことを重視する。そのため、すべての回において、導入としてのワーク、学びを深めるワーク、自己理解を深めるワーク、被援助者の模擬体験をするワークのいずれか1つ以上を行う。						
評 価 基 準			レポート1回：10%（独自の意見・感想が表現されていること） 毎回の感想シート：10%（同上） テスト：80%						
教 科 書			「はじめての講義 リハビリテーションのための臨床心理学」 牧瀬英幹著（2021） 南江堂						
参 考 書			よくわかる臨床心理学改訂版・下山晴彦編・ミネルヴァ書房 臨床心理学とは何だろうか 基本を学び、考える・園田雅代、無藤清子編・新曜社						
実務経験に 関する記述			精神科の入院、外来、デイケアにおける支援、スクールカウンセリング、乳幼児健診での相談業務、心療内科クリニック、学生相談での臨床経験を持つ教員が、各領域における連携事例を含む支援事例を提示し、こころに対する知見と態度を醸成する教育を行う。						

授業科目名			内科学		(フリガナ) 担当教官名		神田 小谷 川原 岡田		武志・村川 暢啓・佐野 洋・長尾 明彦・片岡 哲也		洋子・渡邊 千晶・石原 大志・小川 祐俊・尾上		伸英・慎一郎 典子・正樹	
開講学期			前期・後期				授業 形態		講義		必修・選択 の別		必修	
対象学科 及び学年			理学療法学科 2年 作業療法学科 2年		時間数 単位数		45 3							
科目概要			基礎医学の知識を基にして、臨床医学の基本となっている内科学の病態生理、症候、診断と治療や予後に関する基本的な知識の充実と応用力を養成することを目的とする。											
到達目標			理学療法士、作業療法士の養成施設指導要領に求められる基本的な内科学的知識の取得ができる。											
回数		授業内 容										担 当		
1		膠原病										村川 洋子		
2														
3		アレルギー疾患										菊田 哲也		
4		腎機能障害 血液透過療法、透析合併症										神田 武志		
5														
6		代謝異常症										小川 典子		
7														
8		感染症 中毒、物理的原因による疾患										佐野 千晶		
9														
10		循環器疾患 循環器解剖学・生理学、心電図等の検査 心不全の病態、虚血性心疾患 画像診断										小谷 暢啓 渡邊 伸英 川原 洋		
11														
12														
13														
14														
15		内分泌疾患 下垂体、甲状腺疾患の病態										石原慎一郎		
16														
17		消火器疾患 消化器疾患の症候、検査法 口腔・食道・胃・小腸・大腸の疾患 肝臓疾患の各論、胆膵疾患の総称 画像診断										岡 明彦 片岡 祐俊 尾上 正樹		
18														
19														
20														
21		呼吸器疾患 気管支喘息と COPD、間質性肺炎 画像診断										長尾 大志		
22														
23														
アクティブ ラーニング														
評価基準		期末試験、小テスト、出席の総合得点で評価												
教科書		標準理学療法学・作業療法学・基礎分野 内科学 第4版 前田眞治他 医学書院												
参考書		EBM 現代内科学 黒川清 他編 金芳堂 内科診断学（改訂第9版）黒川清 他編 金芳堂 新臨床内科学（改訂第9版）高久史磨 他監修 医学書院												
実務経験に 関する記述		本科目はオムニバスであり、各専門分野の認定医資格（腎臓専門医、透析専門医、総合内科専門医、内科専門医）を持つ医師が、大学病院で日々臨床診療に携るなか、経験した症例や体験談、模擬事例を提示しながら実践的な教育を行う。												

授業科目名	整形外科学		(フリガナ) 担当教官名	内尾 祐司・山本宗一郎・山上 信生 今出 真司・門脇 俊・真子 卓也 多久和 紘志・西 英明・岩佐 潤二 栗岡 秀行・柿丸 知之				
開 講 学 期	通年							
対 象 学 科 及 び 学 年	理学療法学科 2年 作業療法学科 2年	時 間 数 単 位 数	45 3	授 業 形 態	講義	必修・選択 の 別	必修	
科 目 概 要	運動器の変形・外傷・炎症・変性・代謝疾患・腫瘍についての病態を理解するとともにそれらの診断法、治療法の知識を習得し、選択する判断力を養う。							
到 達 目 標	1. 骨、関節、筋の構造と機能を知るとともに整形外科的診断法の意義を理解する。 2. 頻度の高い骨折、脱臼、捻挫の病態、症状、合併症を理解する。 3. 上肢、下肢、脊椎の代表的疾患と外傷の病態と治療法を理解する。 4. 骨・関節感染症の特徴と診断法および治療法について理解する。 5. 骨・軟部腫瘍の診断法、治療法について理解する。 6. 骨系統疾患、代謝疾患の特徴、診断法および治療法について理解する。							
回数	授 業 内 容						担 当	
1	運動器の構造と機能、病態生理						内尾	
2	診断学、検査						西	
3	治療						岩佐	
4	運動器の外傷						栗岡	
5	骨軟部腫瘍						柿丸	
6	骨・関節感染症、骨系統疾患						多久和	
7	変形性関節症、代謝性疾患						多久和	
8	関節リウマチおよび類縁疾患						西	
9	スポーツ外傷・障害						門脇	
10	運動器リハビリテーション						西	
11	脊椎・脊髄の外傷						真子	
12	脊椎・脊髄の疾患						真子	
13	肩関節・上肢帯の外傷						山本	
14	肩関節・上肢帯の疾患						山本	
15	肘・手関節・手の外傷						山上	
16	肘・手関節・手の疾患						山上	
17	骨盤・股関節・大腿の外傷						門脇	
18	骨盤・股関節・大腿の疾患						門脇	
19	膝関節の外傷						多久和	
20	膝関節の疾患						多久和	
21	下腿・足関節・足の外傷						岩佐	
22	下腿・足関節・足の疾患						今出	
23	下腿・足関節・足の疾患						今出	
アクティブ ラーニング								
評 価 基 準	プレゼンテーション 30%、期末試験 50%、出席日数・授業態度 20%							
教 科 書	運動器疾患とリハビリテーション 第2版（医歯薬出版）							
参 考 書	標準整形外科学／松野丈夫〔ほか〕編集、第12版、医学書院							
実務経験に 関する記述	大学病院、総合病院にて10年以上、臨床経験を持ち整形外科専門医資格を持つ教員が整形外科疾患について具体的な事例を提示し、実践的教育を行う。							

授業科目名		神経内科学		(フリガナ) 担当教官名		オグロ 小黒 ヒロアキ 浩明・渡邊 ワタナベ 達三・飯島 タツゾウ イイジマ 献一			
開講学期		通年							
対象学科 及び学年		理学療法学科 2年 作業療法学科 2年	時間数 単位数	45 3	授業 形態	講義	必修・選択 の別	必修	
科目概要		神経内科疾患を診断し、リハビリテーションを行う時の効果的介入を行うことができることを目標に、(1) 神経学的診断法、検査法、(2) 主要な神経・筋疾患の病態を修得する。							
到達目標		・ 主要神経疾患の成因と病態、症候、検査及び治療を理解できる ・ 神経難病対策の社会的意義を理解できる							
回数	授業内 容							担 当	
1	障害とリハビリテーションプログラム							飯島献一	
2	中枢神経系の解剖と機能							飯島献一	
3	神経学的検査法							飯島献一	
4	意識障害、脳死、植物状態							小黒浩明	
5	頭痛、めまい、失神							小黒浩明	
6	運動麻痺、錐体路徴候、筋委縮							小黒浩明	
7	錐体街路徴候、不随意運動							小黒浩明	
8	運動失調							飯島献一	
9	感覚障害							渡邊達三	
10	高次脳機能障害；失語症							渡邊達三	
11	高次脳機能障害；失認							渡邊達三	
12	高次脳機能障害；失行							渡邊達三	
13	高次脳機能障害；記憶障害、認知症、遂行（実行）機能障害							渡邊達三	
14	構音障害、嚥下障害、脳神経領域の疾患							渡邊達三	
15	脳血管障害							渡邊達三	
16	認知症							渡邊達三	
17	脳腫瘍、外傷性脳損傷							渡邊達三	
18	脊髄疾患							渡邊達三	
19	変性疾患							渡邊達三	
20	錐体街路の変性疾患							渡邊達三	
21	末梢神経障害、てんかん、筋疾患							渡邊達三	
22	感染性疾患、中毒性疾患、栄養欠乏による疾患							渡邊達三	
23	小児神経疾患、廃用症候群と誤用症候群、合併症、排尿障害、性機能障害							渡邊達三	
アクティブ ラーニング									
評価基準		定期試験、小テスト、出席の総合評価で 60 点以上の得点者を合格とする。 60 点未満については、再試験を実施する。							
教科書		川平和美編「標準理学療法学・作業療法学 神経内科学（第 5 版）」(医学書院)							
参考書		田崎義昭・斎藤佳雄「ベッドサイドの神経の診かた」改訂 18 版（南江堂）							
実務経験に 関する記述		20 年以上臨床経験を持つ神経内科学領域の専門医が、具体的な症例を提示し、実践的教育を行う。							

授業科目名		精神医学		(フリガナ) 担当教官名		ワ ケ レイ 和 氣 玲		
開 講 学 期		前期						
対 象 学 科 及 び 学 年		理学療法学科 2 年 作業療法学科 2 年	時 間 数 単 位 数	30 2	授 業 形 態	講義	必修・選択 の 別	必修
科 目 概 要		精神疾患の概要と治療法について学ぶ。 面接、診断方法を学び、本人とその家族をどう支援するのかについても理解する。						
到 達 目 標		①精神疾患の概要と取り巻く環境の基本的知識について理解できる。 ②精神疾患について症状、原因、経過、治療、対応法について理解できる。						
回数	授 業 内 容							担 当
1	序説・第1章 精神医学とは 第2章 精神障害の成因と分類							和 氣
2	第3章 精神機能の障害と精神症状 第4章 精神障害の診断と評価							和 氣
3	第5章 脳器質性精神障害 第6章 症状性精神障害							和 氣
4	第7章 精神作用物質による精神および行動の障害							和 氣
5	第8章 てんかん							和 氣
6	第9章 統合失調症およびその関連障害							和 氣
7	第10章 気分（感情）障害							和 氣
8	第11章 神経症性障害							和 氣
9	第12章 生理的障害および身体的要因に関連した障害 第13章 成人の人格・行動・性の障害							和 氣
10	第14章 精神遅滞 第15章 心理的発達の障害							和 氣
11	第16章 コンサルテーション・リエゾン精神医学							和 氣
12	第17章 心身医学 第18章 ライフサイクルにおける精神医学							和 氣
13	第19章 精神障害の治療とリハビリテーション							和 氣
14	第20章 精神科保健医療と福祉、職業リハビリテーション 第21章 社会・文化とメンタルヘルス							和 氣
15	試験							和 氣
アクティブ ラーニング								
評 価 基 準		期末試験（60％）、出席状況や参加態度（40％）						
教 科 書		「標準理学療法学・作業療法学（専門基礎分野）精神医学」第4版 増補版 上野武治 編集 医学書院						
参 考 書		適宜紹介および資料配布						
実務経験に 関する記述		精神保健指定医、臨床心理士、公認心理師などの資格を持ち、精神科病院で常勤医として20年以上臨床診療に携わる医師が実践的な教育を行う。						

授業科目名		小児科学		(フリガナ) 担当教官名		タケ タニ タケシ 竹 谷 健			
開 講 学 期		後期							
対 象 学 科 及 び 学 年		理学療法学科 2年 作業療法学科 2年	時 間 数 単 位 数	30 2	授 業 形 態	講義	必修・選択 の 別	必修	
科 目 概 要		・子どもの特性・正常発達、小児保健の概要を説明する。 ・小児の疾患を説明して、原因、症状、検査、治療、管理を説明する。							
到 達 目 標		・小児の特徴を理解する。 ・小児の正常な発育・発達を理解する。 ・小児の各種疾患の病態、症状、治療法を理解する。							
回数	授 業 内 容							担 当	
1	小児科概論							竹谷 健	
2	小児保健							竹谷 健	
3	小児の診断と治療							竹谷 健	
4	小児の感染症・呼吸器							竹谷 健	
5	小児の循環器							竹谷 健	
6	小児のけいれん疾患							竹谷 健	
7	小児の腎・泌尿器・消化器							竹谷 健	
8	小児の内分泌							竹谷 健	
9	新生児・未熟児							竹谷 健	
10	小児の免疫・アレルギー							竹谷 健	
11	小児の血液・腫瘍							竹谷 健	
12	小児の神経・筋疾患							竹谷 健	
13	先天異常、奇形							竹谷 健	
14	重症心身障害児							竹谷 健	
15	小児科まとめ							竹谷 健	
16	試験							竹谷 健	
アクティブ ラーニング									
評 価 基 準		試験 90%、出席日数・授業態度 10%							
教 科 書		ナースとコメディカルのための小児科学 改訂第6版 へるす出版							
参 考 書		小児科学 改定第10版 文光堂							
実務経験に 関する記述		小児科専門医の認定を持ち、大学病院で臨床診療に携る医師が、日々の診断で経験した症例や体験談、模擬事例を提示しながら実践的な教育を行う。							

授業科目名		リハビリテーション栄養学		(フリガナ) 担当教官名		ナワタ キヨ 名和田 清 子		
開 講 学 期		後期						
対 象 学 科 及 び 学 年		理学療法学科 2 年 作業療法学科 2 年	時間数 単 位 数	15 1	授 業 形 態	講義	必修・選択 の 別	必修
科 目 概 要		リハビリテーションを行っている障がい者や高齢者の多くに、低栄養を認めることが明らかとなってきた。本科目では、リハビリテーションと栄養の関連を理解し、障がい者や高齢者の栄養管理を関連職種と連携して行うための知識と技術を習得することを目的とする。具体的には、栄養の概念とその役割を学ぶとともに、栄養管理の実践に必要な栄養補給法や栄養管理プロセス、多職種連携等について学修する。						
到 達 目 標		・ 栄養の概念と意義について説明できる。 ・ リハビリテーションと栄養の関連、障がい者や高齢者等における栄養管理の意義について説明できる。 ・ リハビリテーション栄養管理プロセスについて説明できる。 ・ NST（Nutrition Support Team）における理学療法士・作業療法士の役割、関連職種との連携の意義を理解する。						
回数	授 業 内 容						担 当	
1	栄養とは 日本人の食生活と栄養素摂取量、健康の現状と課題						名和田清子	
2	栄養とは 主な栄養素とその役割、栄養と人体						名和田清子	
3	必要栄養素量の算出 日本人の食事摂取基準、エネルギー消費量 栄養補給法						名和田清子	
4	リハビリテーションと栄養 リハビリテーション栄養チームにおける PT・OT・ST の役割						名和田清子	
5	リハビリテーションと栄養、栄養ケアプロセスとリハビリテーション栄養ケアプロセス						名和田清子	
6	低栄養 障がい者・高齢者の栄養管理						名和田清子	
7	主な疾患のリハビリテーション栄養 サルコペニアの摂食嚥下障害						名和田清子	
8	主な疾患のリハビリテーション栄養 脳卒中他						名和田清子	
9	試験						名和田清子	
アクティブラーニング		栄養療法のチームアプローチにおける理学療法士・作業療法士の役割、関連職種との連携の意義についてグループワークを中心に学修し、発表を行う。						
評 価 基 準		期末試験 90%、平常点（授業への参加態度、準備学修の程度、提出物など） 10%						
教 科 書		PT・OT・ST のための リハビリテーション栄養 第3版 基礎からリハ栄養ケアプロセスまで 若林秀隆 著 医歯薬出版社						
参 考 書		リハビリテーションに役立つ栄養学の基礎 栢下淳・若林秀隆 編著・医歯薬出版社						
実務経験に関する記述		国立大学付属病院にて 21 年間の管理栄養士としての実務経験を有すると同時に、国立大学内科での 15 年間の実践研究の実績を有する教員が具体的な事例を提示し、実践的教育を行う。						

授業科目名			薬理学		(フリガナ) 担当教官名		ナオ 直			ラ 良	コウ 浩	ジ 司
開講学期			後期									
対象学科 及び学年			理学療法学科 2年 作業療法学科 2年	時間数 単位数	15 1	授業 形態	講義	必修・選択 の別		必修		
科目概要			薬物療法においては、薬物を投与したときに生じる生体側の反応と、投与された薬物の生体内での変化の両方を考える必要がある。薬物治療に用いられる主要な薬物について、薬理作用、薬物動態ならびに臨床使用上の注意を概説する。									
到達目標			1. 各疾病において使用されている主な薬物について、その作用機序を理解する。 2. 各疾病において使用されている主な薬物について、体内動態、副作用、適応上の留意事項などを理解する。 3. 薬物療法の知識が理学療法・作業療法を受ける患者のケアに応用できる。									
回数	授業内容								担当			
1	総論1：薬物療法の概念、薬物の体内動態								直良浩司			
2	総論2：薬効に影響する因子、薬物の有害作用								直良浩司			
3	各論1：抗感染症薬、抗がん薬、免疫治療薬、抗アレルギー薬、抗炎症薬								直良浩司			
4	各論2：末梢神経系作用薬（交感神経作用薬、副交感神経作用薬、運動神経作用薬、局所麻酔薬）								直良浩司			
5	各論3：中枢神経系作用薬（睡眠薬、抗不安薬、抗精神病薬、抗うつ薬、パーキンソン病治療薬、抗てんかん薬、認知症治療薬、麻薬性鎮痛薬）								直良浩司			
6	各論4：循環器系作用薬（降圧薬、狭心症治療薬、心不全治療薬、利尿薬、抗不整脈薬）								直良浩司			
7	各論5：循環器系作用薬、消化器系作用薬、泌尿器系作用薬、血液・造血器系作用薬								直良浩司			
8	各論6：物質代謝作用薬、消毒薬								直良浩司			
アクティブ ラーニング												
評価基準			出席状況 20%、期末試験 80%									
教科書			適宜講義資料を配付する。									
参考書			「系統看護学講座 専門基礎分野 薬理学」（第15版）医学書院 「PT・OTのための治療薬ガイドブック：リハビリテーション実施時の注意点」（第1版）メジカルビュー社									
実務経験に 関する記述												

授業科目名		医療安全・救急救命技術論		(フリガナ) 担当教官名		タニ グチ カ オ リ 谷 口 かおり ・ 奥出雲町消防士		
開 講 学 期		後期						
対 象 学 科 及 び 学 年		理学療法学科 2年 作業療法学科 2年	時 間 数 単 位 数	15 1	授 業 形 態	講義・ 実技	必修・選択 の別	必修
科 目 概 要		【医療安全】 医療の専門職として、医療事故、医療過誤に関する知識を学び、対象者に質の高い、安全な理学療法、作業療法を保証できる能力を養う。 【救命救急技術論】 医療人として必要な応急手当や心肺蘇生法についての知識・技術を学ぶ。						
到 達 目 標		【医療安全】 事例をもとに医療安全に必要な知識を身に付け、医療の専門職としての責務を自覚することができる。 【救命救急技術論】 心肺蘇生法および止血法や自動体外式除細動器（AED）について正しく理解し、普通救命講習Ⅱの資格を取得することができる。						
回数	授 業 内 容							担 当
1・2・3	応急手当の重要性 心肺蘇生法、止血法について 心肺蘇生法に関する知識および技術の確認							奥出雲町 消防士
4	医療安全の基礎知識							谷口かおり
5	医療従事者の法的責任							谷口かおり
6	チーム医療と医療安全、KYT							谷口かおり
7	Team STEPPS							谷口かおり
8	Team STEPPS							谷口かおり
アクティブ ラーニング	医療事故の事例から、チーム医療としての必要な安全対策をグループワークで実施する。							
評 価 基 準	認定試験 100% 講義への参加・意欲 40%、グループワークで学修および発表 60%							
教 科 書	医療安全 多職種でつくる患者安全をめざして 看護学テキスト Nice							
参 考 書	適宜配布する							
実務経験に 関する記述	【医療安全】 医療安全では、看護師として大学病院で急性期医療に16年、診療所での在宅医療・慢性期医療に3年の臨床経験を持つ教員が、あらゆる臨床現場での医療安全について、医療過誤の事例などを提示し、実践的教育を行う。 【救命救急技術論】 救急救命では、救急救命士の資格を持つ消防士が講師として、全国統一カリキュラムの中でAEDの使用方法や、心肺蘇生法等について実技を踏まえて教授し、普通救命講習Ⅱの資格を取得する。							

授業科目名		老年学		(フリガナ) 担当教官名		エン 遠 ドウ 藤 タケ 健 シ 史		
開 講 学 期		後期						
対 象 学 科 及 び 学 年		理学療法学科 2 年 作業療法学科 2 年	時 間 数 単 位 数	15 1	授 業 形 態	講義	必修・選択 の 別	必修
科 目 概 要		高齢者は、各組織の劣化がみられる。それにより、単純な組織変化だけでも多岐にわたる。そしてその結果、運動・認知機能低下により各種の生活困難がみられる。その困難因子は想像すること、高齢者を視ること学ぶことができるが、多く学生はそれに気づいていないと思われる。本科目で学ぶことも重要であるが、より大事なのは、これから高齢者と関わるなかで高齢者の特徴を発見し続ける態度を身につけることである。そして、その特徴に合わせた対策を検討することが将来の高齢者リハビリ診療を作る根幹となることを期待する。						
到 達 目 標		・ 高齢者の身体的・認知的な特徴を述べることができる。 ・ それにより起きる障害を予測することができる。 ・ 身体機能、認知機能に障害をもつ高齢者のリハビリテーションのあり方を検討することができる。 ・ 老年学の知識を活用し、高齢化社会における課題解決について考えることができる。						
回数	授 業 内 容						担 当	
1	高齢者の衰弱する身体						遠藤健史	
2	退院調整会議：退院に必要な評価と対策						遠藤健史	
3	リハビリを困難にする因子：炎症・せん妄						遠藤健史	
4	致死的な疾患						遠藤健史	
5	よい看取り、触れる効果、Humanitude						遠藤健史	
6	情報取得の方法						遠藤健史	
7～8	試験の内容を想定した内容について、グループワークを行う。現時点で想定しているのは、退院調整や良い看取りのために何を準備すべきか、という内容である。						遠藤健史	
アクティブ ラーニング		学習内容を理解し、認知症の概念と対応について、認知症の各病型の具体的な問題点と対応策について、グループワークを行い学習を深める。						
評 価 基 準		出席点が20%、試験80%で判定し、合計60%以上を単位認定する。 60%に満たない場合は、1回に限り再試験を行う。						
教 科 書		適宜資料を配布する						
参 考 書		老年医学テキスト第3版（日本老年医学会編 メジカルビュー社） 標準理学療法学・作業療法学・老年学（第4版）（奈良 勲ら監修、医学書院）						
実務経験に 関する記述		隠岐、邑智、雲南、奥出雲と高齢化先進地域で勤務。内科的診療を中心とし、認知症対策、運動器疼痛対策をサブスペシャリティーとしてきた。現在、奥出雲病院では総合診療科として、その診療の延長を行い、地域作りに貢献したいと考えている。						

授業科目名		医療コミュニケーション演習		(フリガナ) 担当教官名		ニシコ 錦		オリ 織	ケン 健	ジ 次			
開 講 学 期		前期											
対 象 学 科 及 び 学 年		理学療法学科 2年 作業療法学科 2年	時 間 数 単 位 数	30 1	授 業 形 態	演 習		必修・選択 の 別		必修			
科 目 概 要		理学療法士・作業療法士の関わりは、個人や集団の意思決定に影響を与える。本科目では、理学療法士・作業療法士に求められる高度なコミュニケーション能力の必要性、重要性について理解を深め、演習を通して対象者の意思決定に必要なコミュニケーション技能を養う。加えて、チーム連携の上で必要な多職種間でのコミュニケーションについても学ぶ。											
到 達 目 標		・医療現場におけるコミュニケーションの基本理論を理解し、一部模擬的実践ができる。 ・他者の思いを引き出すことができる。 ・他者に意思を伝え、意思決定をすることができる。											
回数	授 業 内 容										担 当		
1	コミュニケーション論、チーム医療論での学びについて振り返り、医療コミュニケーション演習の目的、概要について説明する。										錦織健次		
2	学生同士で課題に取り組み、ディスカッションをし、まとめる。										錦織健次		
3	学生同士で課題に取り組み、ディスカッションをし、まとめる。										錦織健次		
4	人・場面に合わせたコミュニケーションを講義の後、学生同士で取り組み、改善点を挙げ、まとめる。										錦織健次		
5	人・場面に合わせたコミュニケーションを講義の後、学生同士で取り組む、改善点を挙げ、まとめる。										錦織健次		
6～7	例文を読み、必要な情報を考え、抽出し、伝わるようにまとめる。										錦織健次		
8	対象者に合わせたコミュニケーションについて考え、ディスカッションをし、まとめる。										錦織健次		
9～10	対象者の思いを引き出すコミュニケーションについて学生同士で取り組み、改善点を挙げ、まとめる。										錦織健次		
11～12	これまで取り組んだ内容を踏まえて実践してみる。										錦織健次		
13～14	振り返りとまとめ										錦織健次		
15	多職種連携について										錦織健次		
アクティブ ラーニング		グループワーク型式を中心に学習し、発表を行う。											
評 価 基 準		授業内での態度（積極性、発言回数、与えられた役割の遂行状況等）及び課題から総合評価 100%											
教 科 書		内山靖ほか（著）『コミュニケーション論・多職種連携論』（医歯薬出版株式会社）											
参 考 書		京極真（著）『信念対立解明アプローチ入門－チーム医療・多職種連携の可能性をひらく』（中央法規出版） 水本清久ほか（編著）『インタープロフェッショナル・ヘルスケア 実践チーム医療論 実際と教育プログラム』（医歯薬出版）											
実務経験に 関する記述													

授業科目名		研究方法論Ⅱ（研究計画）		（フリガナ） 担当教官名		ヤマサキケンジ 山崎健治		
開講学期		前期・後期				他 理学療法学科教員全員		
対象学科 及び学年		理学療法学科 2年	時間数 単位数	60 2	授業 形態	演習	必修・選択 の別	必修
科目概要		本科目では、自身の興味と感心のある分野の研究計画書の作成を行う。学生は、先行研究を収集し、文章の読解、臨床的疑問の作成、臨床的疑問の PICO へ定式化、実験計画の立案、対象となる標本と尺度に準じた適切な統計手法の選択、計画内容の文章化を行う。学生は、これらの経験を通じて、理学療法と関連分野における基礎的な研究能力を身に着ける。						
到達目標		・ 情報の種類とエビデンスレベルの関係を理解し、説明できる。 ・ 論文の文章構造を理解し、説明できる。 ・ 興味と感心のある分野における先行研究を様々な媒体から収集できる。 ・ 臨床的疑問を作成し、PICO に定式化する事ができる。 ・ PICO と FINER を利用して実験計画を作成する事ができる。 ・ 取得する情報と分析手順から適切な検定方法を選択できる。 ・ 立案した実験計画を文章化できる。						
回数	授 業 内 容							担 当
1～3	情報の種類、情報媒体の種類と検索方法、研究論文構造の理解							山崎健治
4～5	論文の検索と要約							山崎健治
6～9	研究テーマの模索 グループに分かれ興味関心のある分野の情報を収集し、臨床的疑問を作成する。 作成した臨床的疑問を PICO に整理する。							山崎健治
8～10	サンプルサイズ、多重比較法と回帰分析、割合の検定							山崎健治
11	研究倫理 研究に関する倫理について講義する 研究の進め方 研究の進め方の全体像と研究計画の立案方法について講義する							山崎健治
12	【後期】 オリエンテーション 後期授業の内容、到達度、各グループの担当教員の配置の説明 研究の進め方の全体像と研究計画の立案方法についての説明							PT 学科教員
13～28	研究デザイン、研究計画書の作成 グループに分かれ担当教員の指導のもと、研究計画書と発表資料の作成を行う							PT 学科教員
29～30	発表							山崎健治
アクティブ ラーニング	AL のうちグループワーク、調査学習を用いて、研究計画書の作成を行う。また、完成した計画書の内容をプレゼンテーションする。							
評価基準	授業への出席状況・態度:20%、研究計画書:50%、プレゼンテーション:30%で判定し、60%以上で単位を認定する。 ※上記に関わらず、期日までに研究計画書を提出しなかった場合は単位を認めない。							
教科書	適宜資料を配布する							
参考書	特になし							
実務経験に 関する記述								

授業科目名		理学療法検査測定法Ⅱ		(フリガナ) 担当教官名		ゴ 後 トウ 藤 トモ 智 キ 基・カリ テツ タ 田 哲 ヤ 也			
開 講 学 期		前期							
対 象 学 科 及 び 学 年		理学療法学科 2年	時 間 数 単 位 数	30 1	授 業 形 態	演 習	必修・選択 の 別	必修	
科 目 概 要		理学療法評価の意義と目的を理解し、評価測定技術を習得することを目的とする。具体的には徒手筋力検査、感覚検査、深部腱反射検査、意識レベル検査の技術・技能を獲得させる。授業形態は、実技・演習を中心に実施する。							
到 達 目 標		・ 理学療法評価の目的、意義、機能について理解する。 ・ 理学療法の場面で、対象者に対して、面接、問診、情報収集、インフォームドコンセントを適切に実践することができる。 ・ 理学療法の場面で、対象者に対し、徒手筋力検査、感覚検査、深部腱反射検査、意識レベル検査をリスク管理に配慮しながら円滑に実施することができる。							
回数	授 業 内 容							担 当	
1	オリエンテーション（本科目の到達目標、内容、日程等）							後藤・莉田	
2	徒手筋力検査①（概論 徒手筋力検査の意義、目的、方法）							後藤・莉田	
3	徒手筋力検査②（肩関節、肘関節、前腕）							後藤・莉田	
4	徒手筋力検査③（肩甲帯、手関節）							後藤・莉田	
5	徒手筋力検査④（股関節）							後藤・莉田	
6	徒手筋力検査⑤（膝関節、足関節、足部）							後藤・莉田	
7	徒手筋力検査⑥（頸部、頭部）							後藤・莉田	
8	徒手筋力検査⑦（体幹）							後藤・莉田	
9	感覚検査①（概論 感覚検査の意義、目的、方法、分類）							後藤・莉田	
10	感覚検査②（表在感覚・深部感覚・複合感覚）							後藤・莉田	
11	深部腱反射検査①（概論 深部腱反射検査の意義、目的、方法）							後藤・莉田	
12	深部腱反射検査②（上肢・下肢・表在反射・病的反射）							後藤・莉田	
13	脳神経検査							後藤・莉田	
14	症例検討							後藤・莉田	
15									
アクティブ ラーニング		能動的な学習を促すために、教科書に付属してある Web 動画での事前学習や小テストを取り入れる。							
評 価 基 準		前半（1～8コマ）と後半（9～13コマ）に分けてテストを実施し、前半と後半合わせて100点満点中60点以上を合格とする。それぞれのテスト内容は小テスト（30%）、実技試験（70%）にて評価する。 ※総授業回数の4分の1以上の欠席を未修とする。							
教 科 書		松澤 正・江口勝彦（著）『理学療法評価学 改訂第6版補訂版』（金原出版） 新・徒手筋力検査法 原著第10版（協同医書出版）							
参 考 書		内山 靖（編集）『標準理学療法学 専門分野 理学療法評価学 第2版』（医学書院） 適宜資料配布							
実務経験に 関する記述		総合病院において、専任理学療法士として従事し、急性期病棟、回復期病棟における身体障害および老年期障害に対する個別理学療法を実践した教員が中心となり、理学療法検査法の基礎から、障害や症状に応じた応用・代償方法についても具体的な事例を提示し、実務教育を行う。							

授業科目名		動作分析学		(フリガナ) 担当教官名		ヤマサキケンジ・カリタテツヤ		
開講学期		後期						
対象学科 及び学年		理学療法学科 2年	時間数 単位数	45 3	授業 形態	演習	必修・選択 の別	必修
科目概要		1年次に学習した人体の構造や機能と身体運動（基本的動作）との関係をさらに発展させ、基本的動作能力の構成要素と疾病の病態、身体機能の関係を学習する。						
到達目標		各基本的動作の相、重心移動、筋活動、関節運動、モーメント、その他特徴を理解し、説明することができる。 運動を数値化する機器（床反力計、重心動揺計、2次元動作解析装置、3次元動作解析装置）の結果と身体運動（基本的動作）の関係を考えることができる。 機能障害と基本的動作能力、疾病の病態との関係を、思考図と文章を用いて表現することができる。						
回数	授 業 内 容						担 当	
1	基本的動作と運動力学の基礎① (基本的動作の種類、構成要素である相、重心移動、床反力作用線、内的・外的モーメント、筋活動)						山崎・菊田	
2	運動力学の基礎②（各機器の測定結果と意味）						山崎・菊田	
3～4	基本的動作能力の構成要素と身体機能の関係と思考図、文章の作成方法						山崎・菊田	
5～6	講義 正常歩行動作の観察						山崎・菊田	
7～8	演習 歩行動作の分析 (模擬症例：中枢神経疾患、整形外科疾患、神経筋疾患、虚弱高齢者)						山崎・菊田	
9～10	講義 正常立ち上がり動作の観察と分析						山崎・菊田	
10～11	演習 立ち上がり動作の観察と分析 (模擬症例：中枢神経疾患、整形外科疾患、神経筋疾患、虚弱高齢者)						山崎・菊田	
11～12	講義 正常立位保持動作の観察と分析						山崎・菊田	
12～13	演習 座位保持動作の観察と分析 (模擬症例：中枢神経疾患、整形外科疾患、神経筋疾患、虚弱高齢者)						山崎・菊田	
13～14	講義 正常起き上がり動作の観察						山崎・菊田	
15～16	演習 起き上がり動作の観察と分析 (模擬症例：中枢神経疾患、整形外科疾患、神経筋疾患、虚弱高齢者)						山崎・菊田	
17～18	講義 正常寝返り動作の観察						山崎・菊田	
19～20	演習 寝返り動作の観察と分析 (模擬症例：中枢神経疾患、整形外科疾患、神経筋疾患、虚弱高齢者)						山崎・菊田	
21～22	課題の振り返りと発表準備						山崎・菊田	
23	グループ発表						山崎・菊田	
アクティブ ラーニング	ALのうちグループワーク、調査学習、PBLを用いて、思考図と文章の作成を行う。 また、完成した内容をプレゼンテーションする。							
評価基準	課題の成果物：70% 出席日数：10% 授業態度：20%							
教科書	動作分析 臨床活用講座 バイオメカニクスに基づく臨床推論の実践 第1版（メジカルビュー社） 訳／月城慶一 他「観察による歩行分析」医学書院							
参考書	運動学実習マニュアル 第3版（アイベック）							
実務経験に 関する記述	急性期、回復期、地域包括ケア、外来リハビリテーションを提供する総合病院に4年間、 外来クリニックに2年間、理学療法士として従事し、多様な疾患に個別理学療法を実践した教員が、能力低下と機能障害の関係を講義・実践を通じて教授する。）							

授業科目名		物理療法Ⅰ		(フリガナ) 担当教官名		カン ダ イチ ロ 神 田 一 路		
開 講 学 期		前期						
対 象 学 科 及 び 学 年		理学療法学科 2 年	時 間 数 単 位 数	30 1	授 業 形 態	演 習	必修・選択 の 別	必修
科 目 概 要		物理療法の歴史や分類、治療手段の物理学的特性を理解し、温熱療法、寒冷療法、光線療法、電磁波療法を中心に、各治療法が生体に与える生理学的影響を学ぶ。また、各治療法の適応・禁忌および注意事項についての基礎知識を習得し、物理療法を安全かつ効果的に実施するための理論と実技を修得する。さらに、実技・実習を通じて治療者と被験者の両方の役割を経験し、治療時の生体反応を簡易計測機器を用いて確認する。						
到 達 目 標		・ 炎症の徴候および組織修復のメカニズムを理解し、各病態に適応する物理療法を選定できる。 ・ 痛みの発生機序や分類を理解し、痛みの状況に応じた適切な温熱療法、寒冷療法、光線療法、電磁波療法を選定できる。 ・ 温熱療法、寒冷療法、光線療法、電磁波療法の生理学的作用および効果を説明できる。 ・ 温熱療法、寒冷療法、光線療法、電磁波療法を、リスク管理を踏まえた上で適切かつ円滑に実施できる。 ・ 実技・実習を通じて治療者と被験者の両方の役割を経験し、治療時の生体反応を簡易計測機器を用いて評価できる。						
回数	授 業 内 容							担 当
1	オリエンテーション（本科目の到達目標、内容、日程、等）							神田一路
2	物理療法 （概論、炎症と組織修復、炎症に対する物理療法生理学的作用、痛みの発生機序と分類）							神田一路
3	温熱療法概論 （熱物理学、温熱療法の分類と適応・禁忌、ホットパック、パラフィン浴）							神田一路
4	寒冷療法概論 （寒冷による生体への影響、生理学的作用と適応・禁忌、アイスパック、コールドパック、クリッカー、コールドスプレー）							神田一路
5～6	電磁波療法概論 （電磁波の特性と生体への影響、生理学的作用、適応・禁忌、極超短波療法、超短波療法）							神田一路
7～8	光線療法概論 （光の性質、光線の生理学的作用、適応・禁忌、赤外線療法、紫外線療法、レーザー療法）							神田一路
9～10	温熱療法実習（ホットパック、パラフィン浴）							神田一路
11	寒冷療法実習（アイスパック、コールドパック、クリッカー、コールドスプレー）							神田一路
12～13	電磁波療法実習（極超短波療法、超短波療法）							神田一路
14～15	光線療法実習（赤外線療法、紫外線療法、レーザー療法）							神田一路
アクティブ ラーニング		各物理療法における生理学的作用、適応・禁忌に関する講義は、動画を用いて事前学習を行わせ、授業毎に小テストを取り入れる。実技については、実践や動画を用いての学習を繰り返し技術の習得を目指す。実技についても動画を用いて学習、実践を繰り返し技術の修得を目指す。						
評 価 基 準		筆記試験・実技試験ともに合格したものを単位認定とする。 【配点】 小テスト 10% 期末試験 90%（筆記試験 70%、実技試験 20%）にて評価する。 						

授業科目名		物理療法Ⅱ		(フリガナ) 担当教官名		カン ダ イチ ロ 神 田 一 路		
開 講 学 期		後期						
対 象 学 科 及 び 学 年		理学療法学科 2 年	時 間 数 単 位 数	30 1	授 業 形 態	演 習	必修・選択 の 別	必修
科 目 概 要		物理療法手段の各論として、水治療法、電気刺激療法、牽引療法、超音波療法の基礎理論を学ぶ。これらの治療法が身体に与える生理学および力学的影響を深く理解し、各治療法の具体的な治療技術を習得する。さらに、各治療機器を用いた実技・実習を通じて、治療者と被験者の両方の役割を経験し、治療時の生体反応を簡易計測機器を用いて評価する技術を修得する。						
到 達 目 標		・ 水治療法、電気刺激療法、牽引療法、超音波療法の生理学的作用および効果を説明できる。 ・ 各病態に適応する水治療法、電気刺激療法、牽引療法、超音波療法を選定できる。 ・ 水治療法、電気刺激療法、牽引療法、超音波療法を、リスク管理を踏まえた上で適切かつ円滑に実施できる。 ・ 実技・実習を通じて治療者と被験者の両方の役割を経験し、治療時の生体反応を簡易計測機器を用いて評価できる。						
回数	授 業 内 容							担 当
1	オリエンテーション（本科目の到達目標、内容、日程、等）							神田一路
2	電気刺激療法概論①（電気刺激の物理学、生理学的作用、治療目的と効果、適応・禁忌、各種電気刺激療法の分類）							神田一路
3	電気刺激療法概論②（TENS、EMS、干渉波療法、SSP 療法）							神田一路
4	電気刺激療法実習（TENS、EMS、干渉波療法、SSP 療法）							神田一路
5	超音波療法概論①（超音波の生理学的作用と特徴、キャビテーション、BNR、ERA、適応・禁忌）							神田一路
6	超音波療法概論②（直接法と水中法、温熱作用と非温熱作用、それぞれの実施方法と注意点）							神田一路
7	超音波療法実習							神田一路
8	水治療法概論①（水の物理学、水治療法の分類、生理学的作用、治療目的と効果、適応・禁忌）							神田一路
9	水治療法概論②（渦流浴、気泡浴、ハバードタンク、プール浴）							神田一路
10	水治療法実習①（渦流浴、気泡浴、ハバードタンク）							神田一路
11	水治療法実習②（プール浴）							神田一路
12	牽引療法概論①（牽引療法の分類、生理学的作用、特徴、治療目的、治療効果、適応・禁忌）							神田一路
13	牽引療法概論②（頸椎牽引療法、腰椎牽引療法）							神田一路
14	牽引療法実習（頸椎牽引療法、腰椎牽引療法）							神田一路
15	間欠的空気圧迫法（概論・実習）							神田一路
アクティブ ラーニング	各物理療法における生理学的作用、適応・禁忌に関する講義は、動作を用いて事前学習を行わせる。実技についても動画を用いて学習、実践を繰り返し技術の修得を目指す。							
評 価 基 準	【配点】 小テスト 10% 期末試験 90%（筆記試験 70%、実技試験 20%）にて評価する。 総合計の 60% 以上を単位認定とする。 【期末試験（ペーパー）】 授業内容の知識の定着を確認する。授業内の分野の講義時間数に応じた配点とする。期末試験においては 100 点満点中 60 点以上を合格とし、60 点未満は再試験を受験することが出来る。 【実技】 授業開始時に別途配布する。 ※総授業回数の 3 分の 1 以上の欠席を未修とする。							
教 科 書	理学療法 textbookⅨ 物理療法 第 2 版（九州神陵文庫） PT・OT ビジュアルテキスト エビデンスから身につける物理療法 第 1 版（羊土社）							
参 考 書	EBM 物理療法 原著第 5 版（医歯薬出版） 標準理学療法 textbook 物理療法 textbook 第 4 版（医学書院） 物理 療法マニュアル（医歯薬出版） その他、適宜資料を配布する ※講義では、スライド資料を視聴する。							
実務経験に 関する記述	総合病院において、7年間専任理学療法士として従事し、回復期病棟、医療療養病棟、特殊疾患病棟、外来における身体障害および老年期障害に対する個別理学療法を実践した教員が、疾患および症状に応じた物理療法治療の介入について具体的な事例を提示し、実技を含めた実践的教育を行う。							

授業科目名		内科系治療学Ⅰ		(フリガナ) 担当教官名		スズ 鈴 カリ 荊 イノ 井	キ 木 タ 田 ウエ 上	テツ 哲 ヤ 也 カ イ 魁	ウチ ・ ノ 野	ダ グ チ 口	フ ミ カ 美 美 佳 ア キ ヒ ト
開 講 学 期		後期									
対 象 学 科 及 び 学 年		理学療法学科 2 年	時 間 数 単 位 数	45 3	授 業 形 態	演 習	必修・選択 の 別		必修		
科 目 概 要		この科目では、内部障害における理学療法について学ぶ。心大血管疾患、呼吸器疾患、代謝疾患、がんにおける理学療法評価、治療理論、リスク管理等について理解し、基礎的な理学療法を実施できることを目標とする。加えて、喀痰等の吸引について理解するとともに、シミュレーターを用いた実習を通じて技術を修得する。									
到 達 目 標		心大血管疾患、呼吸器疾患、代謝疾患、がんにおける理学療法評価、治療理論、リスク管理等について理解し、基礎的な理学療法を実施できる。 喀痰等の吸引における目的、実施方法、リスク管理等を理解し、シミュレーターを用いて実施できる。									
回数	授 業 内 容								担 当		
1	オリエンテーション 呼吸器に関する解剖・生理・運動学の復習								井上 魁		
2	呼吸不全、呼吸器疾患の理解								井上 魁		
3～5	呼吸器疾患のフィジカルアセスメント								井上 魁		
6～8	呼吸器疾患の対する理学療法アプローチ								井上 魁		
9	呼吸リハビリテーションの臨床の実際								井上 魁		
10	喀痰等の吸引「シミュレーターを用いた喀痰等の吸引の実際」								井上 魁		
11～13	代謝系理学療法の理解・エネルギー代謝の理解～酸素摂取量、消費カロリー、MET's ～								荊田哲也		
14	運動負荷試験の理解								荊田哲也		
15～16	糖尿病の理解と、糖尿病に対する理学療法の理解								荊田哲也		
17	オリエンテーション、循環器リハビリテーションの理解 課題提示（循環器の解剖、生理、運動）								鈴木 哲		
18	確認テスト（呼吸器系の解剖、運動、生理）								鈴木 哲		
19	心電図 実習：「心電図の測定と異常心電図の読解」								鈴木 哲		
20	虚血性心疾患の病態理解と理学療法								鈴木 哲		
21	心不全の病態理解と理学療法								鈴木 哲		
22	閉塞性動脈硬化症の病態理解と理学療法								鈴木 哲		
23	演習：「症例検討 循環器疾患患者に対する理学療法」発表、フィードバック								鈴木 哲		
24	腫瘍の定義と分類、各がんの病態・症状について								PT教員		
25～26	がん患者に対する理学療法アプローチ								野口瑛一		
アクティブ ラーニング	各疾患ごとのフィジカルアセスメントや症例検討等について演習を行う他、評価や治療アプローチについては実習を通じて知識を深めるとともに、技術を修得する。										
評 価 基 準	定期試験70% 演習課題状況30%にて評価する。 ※呼吸器、代謝、循環器、がんそれぞれの分野毎に試験を行う。試験において60点未満は再試験を受験することができる。										
教 科 書	心臓リハビリテーション必携（日本心臓リハビリテーション学会） 内部障害理学療法学 呼吸 第3版（石川朗 編集 中山書店） 内部障害理学療法学 循環・代謝 第2版（石川朗 編集 中山書店）										
参 考 書	病期が見える Vol.2 循環器（Medic Media） 病理学 疾病のなりたちと回復の促進①（系統看護学講座 専門基礎 医学書院）										
実務経験に 関する記述	呼吸・循環器・がんに対するリハビリテーションの臨床経験を有する教員が、臨床経験通じて得た知識や技術を生かし、講義・演習・実習を行う。										

授業科目名	スポーツ理学療法論		(フリガナ) 担当教官名		ホリ エ タカ フミ 堀 江 貴 文		
開 講 学 期	前期						
対 象 学 科 及 び 学 年	理学療法学科 2 年	時 間 数 単 位 数	15 1	授 業 形 態	演 習	必修・選択 の 別	必修
科 目 概 要	スポーツ外傷および障害の基礎知識を理解し、スポーツ選手に対する基礎的なメディカルチェック、リハビリテーションや、スポーツ現場におけるコンディショニングやテーピング、応急処置が実践できることを目標とする。						
到 達 目 標	・アスレティックトレーナーとして活動する理学療法士の意義や役割について理解し説明できる。 ・スポーツ外傷とスポーツ障害について理解し、それらの具体的な病態について説明できる。 ・スポーツ選手に対するメディカルチェックを立案し、円滑に実施することが出来る。 ・スポーツ外傷に対する応急処置について理解し、円滑に実施することができる。 ・テーピングの基礎を習得し、主要なスポーツ外傷・障害に対する固定テーピングを円滑に実施することができる。						
回数	授 業 内 容						担 当
1	オリエンテーション スポーツ理学療法論 総論（講義） ・理学療法士とスポーツ ・アスレティックトレーナーの役割と活動内容						堀江貴文
2	メディカルチェック（講義・実技） ・メディカルチェックの理論 ・メディカルチェックの実際						堀江貴文
3	コンディショニング（講義・実技） ・コンディショニングの理論 ・コンディショニングの実際						堀江貴文
4～5	応急処置（講義・実技） ・RICE 処置 ・HOPPS による評価手法						堀江貴文
6～8	テーピング（講義・実技） ・テーピング講義 ・テーピング演習						堀江貴文
アクティブ ラーニング	・実技演習ではペアワークやグループワークを用いて、他者との協働力や能動的な学習能力を養う。						
評 価 基 準	筆記試験（50%）、実技試験（50%）にて評価し、100%中60%以上を単位認定する。 筆記試験：授業内容の知識の定着を確認する。授業内の分野の講義時間数に応じた配点とする。期末試験においては100点満点中60点以上を合格とし、60点未満は再試験を受験することが出来る。 実技試験：提示されたスポーツ外傷に対するテーピングの実技試験を行い、その内容を評価する。						
教 科 書	適時資料を配布する。						
参 考 書	スポーツ理学療法学 第3版（メジカルビュー社）						
実務経験に 関する記述	島根県アスレティックトレーナー協議会認定トレーナーの資格を有し社会人実業団に介入している教員が、救護方法や応急処置、身体評価と体調管理、トレーニング方法について教授する。						

授業科目名		生活環境論		(フリガナ) 担当教官名		ゴ 後 トウ 藤 トモ 智 キ 基 ・ オオ ツカ 塚 アキラ 彰		
開 講 学 期		前期						
対 象 学 科 及 び 学 年		理学療法学科 2 年	時間数 単 位 数	30 1	授 業 形 態	演習	必修・選択 の別	必修
科 目 概 要		障がい者や高齢者を含む全ての人に対応した QOL に基づいた生活環境について学ぶ。また、理学療法士が担当する代表的な疾患や障がいの事例から、生活評価と生活環境調整案をグループ検討により作成し、適切な環境整備について学習する。また、福祉住環境コーディネーター2級の資格取得相当の知識を身につけ検定試験合格を目標とする						
到 達 目 標		・生活環境の概念について社会構造、疾病構造、生活構造の変換から説明できる。 ・バリアフリー、ユニバーサルデザインの考え方について理解できる。 ・建築に関する専門用語を理解し、住環境整備のポイント(段差解消、スペース、スロープ勾配、手すり、建具の特徴等)について説明できる。 ・生活機能障害を分析し、学んだ知識を用いて適切な生活環境整備について検討することができる。						
回数	授 業 内 容							担 当
1	生活環境学の考え方について							後藤智基
2	生活環境の特徴と課題							後藤智基
3	生活環境整備に関する法定制度							後藤智基
4	生活環境整備の進め方と基本							後藤智基
5	玄関・アプローチ、廊下・階段、浴室、トイレの住環境整備							後藤智基
6	車椅子の基本知識							後藤智基
7	車椅子の駆動・介助							後藤智基
8	生活環境と障がいを考慮した福祉用具・環境調整の演習①							後藤智基
9	生活環境と障がいを考慮した福祉用具・環境調整の演習②							後藤智基
10	生活環境と障がいを考慮した福祉用具・環境調整の演習③							後藤智基
11	生活環境と障がいを考慮した福祉用具・環境調整の演習④							後藤智基
12	高齢者や障がい者を取り巻く社会状況と住環境							大塚 彰
13	疾患別・障がい別にみた福祉住環境整備と進め方①							大塚 彰
14	疾患別・障がい別にみた福祉住環境整備と進め方②							大塚 彰
15	建築図面のルールと読み方							大塚 彰
アクティブ ラーニング	疾患や障がい事例について、生活評価と生活環境整備案をグループにて学習および検討し発表する。							
評 価 基 準	試験 100% 試験において 60 点未満は再試験を受験することができる。試験得点の 60 点以上を単位認定とする。							
教 科 書	細田多穂 生活環境学テキスト 改訂第2版 南江堂							
参 考 書	福祉住環境コーディネーター検定試験 2 級公式テキスト 東京商工会議所編							
実務経験に 関する記述	総合病院、訪問リハビリ、通所サービスにて 10 年間の臨床経験を持つ教員が、在宅支援や生活支援等に必要環境調整、福祉用具選定等について具体的な事例を提示し、実践的教育を行う。							

授業科目名		地域理学療法演習		(フリガナ) 担当教官名		スズ 鈴 後	キ 木 トウ 藤	テツ 哲 トモ 基	ヤマ 山	サキ 崎	ケン 健	ジ 治	
開 講 学 期		前期											
対 象 学 科 及 び 学 年		理学療法学科 2年	時間数 単 位 数	30 1	授 業 形 態			必修・選択 の 別		必修			
科 目 概 要		高齢化が進展する現代において、地域や在宅で生活する障がい者や高齢者の増加が見込まれる。在宅医療分野における理学療法に必要な、信頼関係の構築や意思決定支援、生きる目的の創出やスピリチュアルペインの軽減、健康の社会的決定要因の是正を目的とした、理学療法のゴール設定や理学療法介入の概要について学ぶ。また、介護予防分野における理学療法の知識・技術を獲得するため、行動変容理論や高齢者に対する運動療法について学ぶ。											
到 達 目 標		在宅医療分野で必要となる以下の基礎的知識・技術を獲得する。 ・信頼関係の構築 ・意思決定支援 ・ICF モデル ・介護保険制度 ・生きる目的の創出やスピリチュアルペインの軽減、健康の社会的決定要因の是正を目的とした理学療法のゴール設定 ・生きる目的の創出やスピリチュアルペインの軽減、健康の社会的決定要因の是正を目的とした理学療法介入介護予防分野で必要となる以下の基礎的知識・技術を獲得する。 ・行動変容理論 ・高齢者への運動療法（フレイル・ロコモティブシンドローム・サルコペニア含む）											
回数	授 業 内 容										担 当		
1.2	オリエンテーション 授業の目的と内容理解、到達目標の理解 地域理学療法の概要について										鈴木 哲		
3.4	ICF モデルと情報収集・ゴール設定										鈴木 哲		
5.6	患者中心の医療実践のコア：意思決定支援 支える人になるための信頼関係の構築										後藤智基		
7.8	対象者を通じたリソースの把握と「リソースにつなぐ」										鈴木 哲		
9.10	介護予防と理学療法：地域包括ケアと介護予防 介護予防と理学療法：自助を促す知識と技術										鈴木 哲		
11.12	介護予防と理学療法：高齢者の運動療法（フレイル・ロコモティブシンドローム・サルコペニア含む）										山崎健治		
13.14	介護予防の現場で集団に対し運動指導（演習）										山崎健治 後藤智基		
15	発表										山崎健治 後藤智基		
アクティブ ラーニング		・生きる目的の創出やスピリチュアルペインの軽減、健康の社会的決定要因の是正を目的とした理学療法のゴール設定の学習の中で、ペーパーペイシェントで示した対象者の情報をICFモデルにまとめ、理学療法ゴールを立案するワークを行う。 ・奥出雲町の地域資源をインターネット等で収集し、模造紙にまとめていくワークを行う。 ・介護予防の現場で集団に対し運動指導を行うと仮定し、その際の資料作成を行う。											
評 価 基 準		ICF ワークの課題 20%、地域資源の把握課題 30%、運動指導のための説明資料と発表 50%とする。											
教 科 書		適宜資料配布											
参 考 書		特になし											
実務経験に 関する記述													

授業科目名			義肢学		(フリガナ) 担当教官名		オオツカアキラ		大塚 彰	
開講学期			後期							
対象学科 及び学年			理学療法学科 2年 作業療法学科 2年	時間数 単位数	30 1	授業 形態	演習	必修・選択 の別	必修	
科目概要			下肢義肢・上肢義肢義肢（義足・義手）に関して、理学療法士・作業療法士に必要な基本的な知識を学修します。すなわち、義足においては基本的な構造、ソケットの種類、ベンチアライメント・静的アライメント・動的アライメントなどを学びます。義手に関しては、処方からパーツを考えて実習として、弾力包帯の施行とギプス採型の実験を経験します。							
到達目標			義肢の実験および切断のリハビリテーションの実験を理解する。							
回数	授業内容								担当	
1・2・3	・義肢とは・大腿義足（ソケット、膝継手、足部） ・大腿義足（ベンチ・静的・動的アライメント） ・大腿義足（異常歩行とその修正）								大塚 彰	
4・5・6	・下腿義足（各種ソケット・アライメント・異常歩行） ・股義足・膝義足・サイム義足の特徴 ・下肢切断者のリハビリテーション（評価・ポジショニング・断端ケアとしての弾力包帯の施行など）								大塚 彰	
7・8・9	・義手：分類・処方と義手構成・機構など（1） ・処方と構成・機構など部品の解説（2） ・機構と部品の解説（3）								大塚 彰	
10・11・12	・ハーネスコントロールシステムなど ・義手のチェック ・電動義手								大塚 彰	
13・14・15	・実習（ギプス採型など） ・実習 ・実習								大塚 彰	
アクティブ ラーニング	ギプス採型実習および模擬義肢の試着 切断者を知るための経験として									
評価基準	出席、態度、テスト等で総合判定する									
教科書	① 15 レクチャーシリーズ理学療法テキスト 義肢学 中山書店 第2版 ISBNコード 978-4-521-73225-1 ②義肢装具のチェックポイント 医学書院 第9版									
参考書	① イラストでわかる義肢療法 医歯薬出版株式会社									
実務経験に 関する記述	徳島大学付属病院・愛媛大学付属病院での切断者のリハビリテーションの経験および筋電制御電動義手、特にハンドの開発研究に従事									

授業科目名	臨床実習Ⅰ		(フリガナ) 担当教官名		各臨床実習施設指導者・全専任教員			
開講学期	後期							
対象学科 及び学年	理学療法学科 2年	時間数 単位数	45 1	授業 形態	実習	必修・選択 の別	必修	
科目概要	本科目は、臨床実習施設において、実際の診療に参加しながら実践を通じて理学療法業務を学ぶ実習科目である。 業務の見学や補助を通じて、理学療法士の業務について理解を深めるとともに、社会人、医療従事者として相応しい意識と患者（利用者）および臨床実習指導者をはじめとする臨床現場の職員に対する適切な態度を育成することを目的とする。							
到達目標	・理学療法士の基本的な業務内容を理解できる。 ・関連職種との連携の重要性を理解できる。 ・掃除、送迎、雑用等の業務を補助できる（診療補助は除く）。 ・社会人、医療従事者として相応しい意識と患者（利用者）および指導者をはじめとする臨床現場の職員に対する適切な態度をとることができる。							
授業内 容							担 当	
臨床実習 時間：40 時間（1 週間：5 日間） 場所：医療提供施設もしくは医療外施設 内容：業務の見学や補助を通じて、理学療法士の業務について理解を深めるとともに、社会人、医療従事者として相応しい意識と患者（利用者）および臨床実習指導者をはじめとする臨床現場の職員に対する適切な態度を身に付ける。 詳細な日程は、臨床実習要綱を参照。 1 週間の施設実習時間は、40 時間とし、家庭学習時間を含め 45 時間以内とする。 但し、家庭で自己学習を行う場合は、この限りではない。							臨床実習 指導者	
アクティブ ラーニング	各臨床実習施設において、診療参加型臨床実習（クリニカルクラークシップ）を行う。							
評価基準	総括的評価は学院教員にて実施する。 オリエンテーションへの出席状況や態度、臨床実習中の状況、臨床実習最終状況（評価による評価結果含む）、臨床実習後の提出課題内容、実習報告会の内容を総合的に評価し成績判定する。							
教科書	島根リハビリテーション学院 理学療法学科 臨床実習要綱							
参考書								
実務経験に 関する記述	臨床実習指導者は、5 年以上実務に従事した者が担う。							

授業科目名		総合演習Ⅱ		(フリガナ) 担当教官名		理学・作業療法学科教員		
開講学期		通年						
対象学科 及び学年		理学療法学科 2年 作業療法学科 2年	時間数 単位数	60 2	授業 形態	演習	必修・選択 の別	必修
科目概要		本科目は、理学療法・作業療法の対象となる臨床心理学、精神医学、神経内科学、整形外科の知識を統合することを目的としている。授業前の事前学習後に講義を行い、グループワークを中心に理解を深めていく。						
到達目標		2年次に学修すべく臨床心理学、精神医学、神経内科学、整形外科を復習し、その知識を用いて3年次に行う理学療法治療学・作業療法治療学に応用していく基礎を身につけることができる。						
回数	授業内 容						担 当	
1～4	精神医学分野						理学療法学科・ 作業療法学科 教員	
5～8	脳血管疾患分野						理学療法学科・ 作業療法学科 教員	
9～16	神経筋疾患分野						理学療法学科・ 作業療法学科 教員	
17～22	臨床心理学分野						理学療法学科・ 作業療法学科 教員	
23～30	整形外科疾患分野						理学療法学科・ 作業療法学科 教員	
アクティブ ラーニング		病態の解釈および到達度に沿った暗記、暗記確認に取り組む。 1. 科目担当教員から事前に分野についての資料提示がある。その後、学生は個人で事前学習として資料内容を確認しておく。 2. 科目担当教員が講義後、理解を深める。 3. 分野について暗記・口頭試問などを行い、理解の程度を確認する。 4. 科目担当教員は過去問題を提示する。その後、学生は問題を解き、間違えた問題について、問題の解釈や解き方等について復習する。						
評価基準		試験 90%、出席状況 10%にて評価する。 ※試験は、各分野の講義後（1週間後）に実施する。 5分野毎に試験（それぞれ 100 点）を行う。試験において 60 点に到達しない場合は再試験を受験することができる。						
教科書		適宜、資料を配布する						
参考書		国試の達人 臨床医学編 (株)アイベック						
実務経験に 関する記述								

授業科目名		障がい者スポーツ		(フリガナ) 担当教官名		ホリ エ タカ フミ 堀 江 貴 文		
開 講 学 期		後期						
対 象 学 科 及 び 学 年		理学療法学科 2 年	時間数 単 位 数	30 1	授 業 形 態	演 習	必修・選択 の 別	自由選択
科 目 概 要		障がいの理解、障がい者とスポーツの関係性について講義する。障がい者スポーツにおける用具の工夫やルールについて実践を通して学ぶ。また、障がいに合わせたスポーツの導入や指導方法について実技を交えて体得する。本カリキュラムをすべて履修することにより、初級障がい者スポーツ指導員の資格を取得する。						
到 達 目 標		・障がい者スポーツの意義と理念や様々な障がいについて説明できる。 ・障がい者スポーツのルールや技術、指導法を体得し、指導できる。 ・初めてスポーツに参加する障がい者に対し、スポーツの喜びや楽しさを重視しスポーツの導入を支援出来る。						
回数	授 業 内 容							担 当
1	オリエンテーション（本科目の到達目標、内容、日程、等） 自己紹介・グループ決め							堀江貴文
2	スポーツのインテグリティと指導者に求められる資質（講義） ・スポーツのインテグリティとは（スポーツ・インテグリティを脅かす要因・諸問題） ・スポーツ指導者に求められる資質・能力 ・障がい者スポーツ指導者の役割・心構え・視点 ・ボランティアの魅力、ボランティアの心得、留意点							堀江貴文
3	障がい者スポーツの意義と理念（講義） ・障がい者個々人における意義（身体的・精神的効果） ・スポーツ界および社会一般における意義（共生社会の創造、パラリンピックの効果） ・障がい者スポーツの理念（Dr グッドマンの考え方や功績、実践上・指導上の理念）							堀江貴文
4	コミュニケーションスキルの基礎（講義・演習） ・よいコミュニケーション、よいプレゼンテーションのための留意点 ・よい人間関係をつくるために必要なこと ・スポーツ指導者に求められるコミュニケーションスキル ・障がい特性に応じたコミュニケーション方法 ・実践、演習を通して人前で話すこと、相手の意見を傾聴することを体験する							堀江貴文
5	障がいのある人との交流（実習） ・障がい者スポーツ大会へのボランティア参加を通じた実習等							堀江貴文
6	障がい者スポーツ推進の取り組み（講義） ・各都道府県・政令指定都市の障がい者スポーツ推進の現状と課題 （日本障がい者スポーツ協会ビジョンを含む） ・障がい者スポーツ指導者制度の概要 ・地域の障がい者スポーツ協会や指導者協議会について ・資格取得後の活動方法と情報入手方法							堀江貴文
7	障がい者スポーツに関する諸施策（講義） ・障がい者福祉施策とその変遷 （障害者基本法・障害者差別解消法・移動支援・身体障害者福祉法・障害者総合支援法） ・障がい者の生活と実態（障がい者数、利用福祉サービス） ・障がい者スポーツに関する施策 （スポーツ基本法、スポーツ振興体制、スポーツ基本計画とその振興）							堀江貴文
8	安全管理（講義） ・スポーツ指導者の安全配慮義務（心得・リスクマネジメントの基礎） ・基礎的な対処法について（救命手当、応急手当、AED、CPR 等）※基礎理論のみ ・ヒヤリ・ハット事例（熱中症、転倒、水分補給）							堀江貴文
9～10	身体障がい（肢体不自由、視覚障がい、聴覚障がい、内部障がいを含む）の理解（講義） ・各障がいの主な特性や、実際のスポーツ活動場面で活かせる各障がいに関する知識と指導上の配慮点を身につける。 ・スポーツ活動現場をベースに内容を構成する。							堀江貴文
11	知的障がい（発達障がいを含む）の理解（講義） ・各障がいの主な特性や、実際のスポーツ活動場面で活かせる各障がいに関する知識と指導上の配慮点を身につける ・スポーツ活動現場をベースに内容を構成する。							堀江貴文
12	精神障がいの理解（講義） ・各障がいの主な特性や、実際のスポーツ活動場面で活かせる各障がいに関する知識と指導上の配慮点を身につける ・スポーツ活動現場をベースに内容を構成する。							堀江貴文
13～14	各障がいのスポーツ指導上の留意点と工夫（実技） （グループワークにて障がい者に対するスポーツ指導の工夫を考え実践し、発表を行う）							堀江貴文
15	全国障害者スポーツ大会の概要（講義） ・全国障害者スポーツ大会の歴史、開催の意義・目的 ・大会競技規則の原則（基準要綱、基本方針など） ・大会実施競技の紹介							堀江貴文
アクティブ ラーニング	グループに分かれ、PBL（problem-based learning）にて障がい者スポーツ指導の実践方法を学ぶ。							
評 価 基 準	授業内での積極性・態度・発言などにより総合的に評価する。 ※総授業回数の3分の1以上の欠席を未修とする。 ※2～15回の授業については、1回でも欠席があった場合、初級障がい者スポーツ指導員資格の取得が出来なくなる。							
教 科 書	適宜資料を配布する。							
参 考 書	・障がいのある人のスポーツ指導教本（初級・中級）—2020年改訂カリキュラム対応—（株式会社ぎょうせい） ・全国障害者スポーツ大会競技規則集（解説付）—令和2年度版—（公益財団法人日本障がい者スポーツ協会）							
実務経験に 関する記述	日本障がい者スポーツ協会公認の障がい者スポーツ指導員養成講座を受講し、障がい者スポーツ指導員の資格を有している教員が、各障害の主な特性に配慮しながら安全にスポーツを実施させるために必要な基礎知識を教授し、地域にある障がい者福祉施設に対し、スポーツおよびレクリエーション指導に取組み実践的教育を行う。							

授業科目名		医学英語		(フリガナ) 担当教官名		岩 田 淳		
開 講 学 期		通年						
対 象 学 科 及 び 学 年		理学療法学科 2 年 作業療法学科 2 年	時 間 数 単 位 数	60 2	授 業 形 態	演 習	必修・選択 の 別	自由選択
科 目 概 要		医療従事者にとって、英語は医療情報の収集や共有において不可欠なツールです。訪日や在日外国人患者の増加に伴い、日本語が通じない患者さんと円滑なコミュニケーションをとるためにも、英語のスキルがますます求められています。この科目では、医療やリハビリテーションに関する基本的な英語専門用語の習得、様々なリハビリテーションの場面を想定した医療会話のリスニング演習、そしてロールプレイを通じて、理学療法士や作業療法士として必要な基礎的で実践的な英語コミュニケーション能力を身につけます。英語の得意・不得意に関わらず、「医学英語の基礎を学びたい」と考える方や、「リハビリの現場で実際に使える英会話力を身につけたい」という方におすすめの授業です。ぜひ、幅広い医療状況に対応できる英語スキルを身につけ、自身の専門領域でより一層活躍できるようになりましょう。						
到 達 目 標		・医療やリハビリテーションに関する基本的な英語の専門用語が理解できる。 ・医療やリハビリテーションのさまざまな場面の英会話を聞いて内容が理解できる。 ・医療やリハビリテーションに関するさまざまな説明を英語を使って表現できる。						
回数	授 業 内 容							担 当
1	授業ガイダンス（前半の授業の進め方、評価）							岩田
2	Lesson 1: 挨拶: 初回の挨拶をしよう							岩田
3	Lesson 2: 問診(1): 痛む部位を聞いてみよう							岩田
4	Lesson 3: 問診(2): 痛みの種類や程度を聞いてみよう							岩田
5	Lesson 1-3のまとめと確認。英語の歌を聞いてみよう (1)							岩田
6	Lesson 4: 問診(3): 痛みの経過を聞いてみよう							岩田
7	Lesson 5: 肢位設定(1): 基本的な肢位を指示してみよう							岩田
8	Lesson 6: 肢位設定(2): 応用的な肢位を指示してみよう							岩田
9	Lesson 4-6のまとめと確認。英語の歌を聞いてみよう(2)							岩田
10	Lesson 7: 評価(1): バイタルサインを確認しよう							岩田
11	Lesson 8: 評価(2): 自動可動域を測定してみよう							岩田
12	Lesson 9: 評価(3): 他動可動域を測定してみよう							岩田
13	Lesson 7-9のまとめと確認。英語の歌を聞いてみよう(3)							岩田
14	Lesson 10: 評価(4): 体幹の可動域を測定してみよう							岩田
15	Lesson 11: 評価(5): 頸部の可動域を測定してみよう							岩田
16	Lesson 12: 評価(6): 筋力を測定してみよう							岩田
17	Lesson 10-12 のまとめと確認。英語の歌を聞いてみよう (4)							岩田
18	Lesson 13: 評価 (7): 触覚検査をしてみよう							岩田
19	Lesson 14: 評価 (8): バランス検査をしてみよう							岩田
20	Lesson 15: 評価 (9): 歩行評価をしてみよう							岩田
21	Lesson 13-15 のまとめと確認。英語の歌をきいてみよう (5)							岩田
22	Lesson 16: 治療 (1): ホームエクササイズを指導してみよう							岩田
23	Lesson 17: 治療 (2): RICE 処置をしてみよう							岩田
24	Lesson 18: ADL(1): 移乗動作の練習をしてみよう							岩田
25	Lesson 19: ADL(2): 食事の評価と指導をしてみよう							岩田
26	Lesson 16-19 のまとめと確認。英語の歌を聞いてみよう (6)							岩田
27	Lesson 20: 環境調整 (1): 適切な歩行補助具を選択してみよう							岩田
28	Lesson 21: 環境調整 (2): 自宅のトイレを改修してみよう							岩田
29	Lesson 22: 退院: 退院後の生活指導をしてみよう							岩田
30	Lesson 20 - 22 のまとめと確認。英語の歌を聞いてみよう (7)							岩田
アクティブ ラーニング	ペアワークによる英会話のロールプレイを行います。							
評 価 基 準	確認テスト 70%、授業への取組み 30%							
教 科 書	『PT・OP が書いたリハビリテーション英会話』 三木貴弘他著・Medical View 社 2,640 円（税込）							
参 考 書	プリント教材（配布）							
実務経験に 関する記述	島根大学医学部にて 17 年間にわたり専門的な医学英語教育の実績を有する教員が、専門英語教育の教材や教授法を用いて、理学療法士・作業療法士として必要となる医学英語コミュニケーション能力の養成を目指した専門教育を行う。							

授業科目名	地域理学療法実習		(フリガナ) 担当教官名		鈴木 哲・後藤 智 基 荻 田 哲 也			
開 講 学 期	前期							
対 象 学 科 及 び 学 年	理学療法学科 2年	時間数 単 位 数	30 1	授 業 形 態	実習	必修・選択 の 別	自由選択	
科 目 概 要	介護予防事業の現場にて、参加者から情報収集をおこない、ICF モデルにまとめ、生きる目的の創出やスピリチュアルペインの軽減、健康の社会的決定要因の是正を目的とした理学療法のゴール設定や介入立案を行う。 また、参加者に対し、介護予防を目的とした運動指導・栄養指導を行う。 毎回、担当教員や実習先の職員からフィードバックをもらい、次の授業に活かしていく。							
到 達 目 標	在宅医療分野で必要となる以下の基礎的知識・技術を獲得する。 ・信頼関係の構築 ・意思決定支援 ・ICF モデル ・介護保険制度 ・生きる目的の創出やスピリチュアルペインの軽減、健康の社会的決定要因の是正を目的とした理学療法のゴール設定 ・生きる目的の創出やスピリチュアルペインの軽減、健康の社会的決定要因の是正を目的とした理学療法介入介護予防分野で必要となる以下の基礎的知識・技術を獲得する。 ・行動変容理論 ・高齢者への運動療法（フレイル・ロコモティブシンドローム・サルコペニア含む）							
回数	授 業 内 容						担 当	
1 ～ 5	介護予防事業の見学 参加者からの情報収集 運動・栄養指導の準備 フィードバックと次回の学習目標の立案							
6～10	介護予防事業での運動・栄養指導の実施（1回目） 参加者からの情報収集 次回の運動・栄養指導の準備 フィードバックと次回の学習目標の立案							
11～15	介護予防事業での運動・栄養指導の実施（2回目） 参加者からの情報収集 フィードバックと次回の学習目標の立案							
アクティブ ラーニング								
評 価 基 準	情報収集技術、ICF、ゴール設定、介入立案、運動・栄養指導等の内容、態度から総合的に判定する。							
教 科 書	特になし							
参 考 書	特になし							
実務経験に 関する記述								